
三度目の人生

むしん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

三度目の人生

【Nコード】

N1238E

【作者名】

むしん

【あらすじ】

三度死にそうになったが、今は幸せな人生を送っている

私は過去3度死にました

最初は五才の時、

石垣の上から3メートル位下に落ち、

頭を石にぶつけ、頭蓋骨にひびが入ったそうです

直ぐに病院へ運ばれたのですが

そのご40度以上の熱が何日も続き

母は生きた心地がしなかったそうです

次は二十歳の時の交通事故

夜中に友達と友達の彼女を乗せ

友達の彼女を家まで送り届けた直後でした

原因は居眠り運転

気が付くと私は病院のベットに寝ていました

私は幸い前歯2本が折れたのと

胸の打撲だけ

あと脳波が異常なだけ
しかし、助手席の友達は

フロントガラスに顔から突っ込み

左目の上から右目の下にかけて

大きな傷をおい

失明の恐れもあるとのことでした

病院の配慮からか病室は別々でしたが

私は毎日を泣いていました

結果、友達は失明しませんでした

顔に大きな傷が残りました

その後友達から、彼女と別れたと聞かされたときは、心が痛みました

しかし本当に心が痛んだのは

友達のお母さんが、車に跳ねられ無くなったと聞かされたときです
何とも表現できない心の痛みを感じました

最後は42才の時

ノイローゼになったときです

仕事が嫌になり

人間が嫌になり

全てが嫌になりました

この時、ふと以前に母から聞かされたことばを思い出しました

それは私が、小学4年生のころ

「おへんろ」さんが家に来て

「この子が42才になった時、人生を左右する非常に大きな事が起こる」

とだけ言い残して去っていったというのである

それを母から聞かされたときは、何とも思わなかったが

その時は、今正にそれだと思った

その後3年位ノイローゼから脱出しようともがき苦しんだが

今は完全に脱出できたと思う

いずれにしても、人生何があるか分からない

その日、その日を精一杯生きたいものだ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1238e/>

三度目の人生

2011年1月1日14時26分発行